第 2017-05 号

恵みと真理のニュース

2017 年 1 月の五次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　神様は婚家を神の国のため献身する家庭になってくださって、私がいつも主だけ望んで委ねる福ある人生で生きるように摂理してくださいました

私は慶州で学生時代を送ってプサンに引っ越しして生活をする間、京畿道のカソン出身の軍に服務していた今の旦那に出会いました。私の家族はいとこが担任している教会に出席して熱心に信仰生活をしていましたが、旦那の家族は偶像崇拝をして儒教の慣習を従っていました。旦那は私と付き合いながら私が通っている教会に一緒に信仰生活を始めました。
旦那が除隊して私は旦那の家族に挨拶するため初めて婚家に行きました。行ってみたら家の中に偶像崇拝する様々な物がいっぱいありました。このような神様を信じない家庭の男と結婚するのが恐れました。しかし、イエス様を信じ始めた旦那だけみて結婚の前提とした交際を続けました。
それから、まもなく婚家に大きい苦難が来ました。旦那の兄が重い病気にかかって生死の瀬戸際に立ちました。続いて二番目の義妹が原因不明な病気になてわからない話をしました。すると、姑は義妹を巫女の所に託して、お寺に行ってお参りをしました。どころが、巫女の家で事件が起きました。ある日から、 義妹 がイエス様を探したりイエス様の話をしたりしました。イエスの話を聞いた巫女が怒ってしまい義妹を殴った事件が起きました。舅 姑がとても怒ってその日に 義妹を家に連れて来ました。そして、深刻に悩みました。お寺に行ってお参りをするのが空しいことを少しずつ悟るようになりました。私はその機会に勇気を出して"教会に行くべきだ。
すると、まず 舅に大きい変化が来ました。神様の存在に対する信仰はあったが、教会に行くと今まで世の中で生活した自由がなくなると思って行かなかったが、これから教会に行ってみるとしました。その後、何か月続けて教会に通って、家でも家族がみんな集まって神様に礼拝を捧げるようになりました。そして、夫の両親がイエス様を受け入れてすべてが切に神様に祈った後
嘘のように旦那の兄と妹の病気が治りました。この驚くな神様の奇跡を体験して旦那の兄と妹は神学を勉強して福音を述べ伝える献身する教役者になりました。
婚家が福音化されて教会で結婚礼拝を捧げて信仰の家庭を作って導いてくださった神様に感謝しました。体が弱かった兄が熱心に主を仕え教会で奉仕する旦那にも神学を勉強すると勧めました。そうするときに私は牧師の奥さんにはなりたくないと断りましたが、結局旦那は神学を勉強をすると会社を辞めて失業者になりました。二人の子供を育てる状況で仕方なく働かなければならなかったです。
私が聖霊充満と異言の賜物を愛して21日間祈りをして最後の日、金曜祈り会に異言の賜物を受けました。そして、その日の夜神秘の体験をしました。夢の中で私が熱心に伝道する中で携挙の現状を経験したのです。私は空中に上がれる時に"主よ、神様を信じない周りの人がかわいそうです。彼らも私と共に天国に行けるように導いてください。" と祈りました。すると、"わが娘よあなたの賞が大きい。" とお話をする神様の声が聞こえて来ました。その御言葉を聴いて時計を見たら夜中3時でした。その日の喜びと感動が私の人生の座標になって信仰と従順の生活をするようにしてくださいました。私はその時から、伝道に力を尽くして伝道の実りを得て何回の伝道賞をもらって神様に栄光を捧げました。
その間、旦那は私の反対と自分の決断で神学勉強を辞めてキリスト教に関連する本を出版する出版社の幹部で再就職して仕事をしました。そして、私もその出版社の営業部署で職場を移して働きました。慣れなくて営業をする事なので毎日祈りで一日を始めました。特に神様の栄光と主の喜びになるため目標を決めて祈りと熱心に祈りました。キリストの香りを放ついて塩と光の役割を担えるため誰よりも誠実するのを目標をして働きました。そうしたら、営業手始めだった私が入社して7が月に売り上げ高くする王にもなりあした。そして、全職員に対してスピーチをするようになって" 群衆はこれを見て恐ろしくなり、人間にこれほどの権威をゆだねられた神を賛美した。" （マルコによる福音書　9：23）という御言葉を持って経験を話しながら神様に栄光を捧げました。
どころが、この後、会社生活にもっと熱情を使った一方に信仰生活を疎かになりました。ある日からどんどん神様の恵みを忘れて神様の能力より自分の能力を信じて委ねるようになりました。
一つの事務室の責任を預かる席になって二つの局を管理する位置に上がって勝利をするように見えますが、実際は違いました。私の心は傷だらけになって一日倒れました。そうして、私が経営する事務室が二つになって私の営業が一日ですべて滅びました。
今まで私が願っわなかった方向で流れているのを悟りました。子供たちが幼いとき区域長として熱心に主の事をして教会で奉仕しながら神霊な楽しさと幸せを忘れて世俗的な名誉を追って時間を無駄に使っている私を発見しました。平日の礼拝に参席して当会長の牧師の説教を聴く時間、間違っていた姿を深く悟って多くの涙を流しながら、真実に悔い改めました。その後、礼拝と主の事を最優先して御言葉を愛して生きるようになりました。人々の評価と目線ではなくて、神様の評価と目線だけ意識して生きるようになりました。
　私は今、教会学校の幼稚部の教師として奉仕しています。教会学校に来てみたら私が通っていた出版社で発行された聖書勉強の本がありました。教会で発行された本と共にその本を活用して子供たちを教えるようになりもっと喜びます。私の人生を振り返ってみると神様に感謝することが多いです。特に婚家の家族を見ながら" このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。" （マタイによる福音書20：16）御言葉が思いだします。神様を信じなかった家庭でしたが、兄弟たちの二人も福音使役者として献身して旦那も先に信じた私が習うほど長老になって教会と聖徒達を仕えています。驚くな神様の恵みです。長老の奥さんになりたがった夢も成し遂げてこれ以上願うことがないです。ただ、神様に与えてくださった人生の最後まで主だけを愛し委ねて生き主の事を担えたいです。父なる神様、私の全てのことに感謝します。

［信仰コラム］　このような人はあやまちに陥りません

" 兄弟たちよ。それだから、ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選びとを、確かなものにしなさい。そうすれば、決してあやまちに陥ることはない。．．．" （ペトロの手紙二 1:10～12）

あやまちに陥るということは結局、信仰が損傷を受けたり喪失されることを意味します。従って、あやまちに陥るようにする原因提供者やあやまちに陥る者は全て悲劇の主人公です。信仰を持とうとしたり、信仰生活をする人があやまちに陥る原因は何であれ、どのようにしたらあやまちに陥らないでしょうか？
第一、救い主について歪曲された観念を持つのがあやまちに陥る原因です。
ユダヤ人が待ちかねるメジヤすなわちイエス様がお越しになったが、不思議にもユダヤ人達はイエス様を排斥しました。その理由は彼らが望むメジヤではなかったからです。彼らは政治的なメジヤがお越しになることを期待しました。しかし、聖書にはメジヤがお越しになり苦難を受けて人類の罪を贖うことが予言されました。ユダヤ人達はこのような予言書を読みながらも人間の罪を贖うためにこの世にお越しになり苦難を受けられるメジヤについては故意に目をつぶりました。メジヤについて誤った観念を持つとこのようなことが起きてしまいます。
第二、神様の時と方法を考えることができなくて自分の予想に執着することがあやまちに陥る原因になります。
洗礼ヨハネはイエス様がメジヤでおられることを知っていたが、イエス様が恵みを施されることと共に審判なさることを彼は期待しました。罪人に恵みと愛を施すために初臨なさるイエス様とこの世を審判なさるために再臨なさるイエス様間の時間的間隔を知らなかったのです。イエス様は審判なさるためにお越しになったことではないことを知らせてくださるため " わたしにつまずかない者は、さいわいである " と言われました。イエス様の再臨に関しても予言が成就される日と方法に対しても度を過ごして執着してはならないでしょう。神様の時と方法を考えずに自分の予想に執着することはあやまちに陥る原因になります。
第三、自分の経験と知識の限界内でイエス様を理解しようとすることがあやまちに陥る原因であります。
ナザレの人々がイエス様のお言葉を聞いてあやまちに陥ったのはイエスキリストをただ優れた人だと知っていたからです。イエス様を優れた宗教家、思想家としては認めるがイエス様が神性を持って乙女の体から生まれたことは受け入れられない人々が多くいます。これは人間の経験と知識の限りでイエス様を理解しようとするからです。" 私達の罪を担い十字架につけられて死なれ、復活なさいこの世に再びお越しになるイエスキリストだけが唯一な救い主である。" という真理が心の中で面倒である人はいつかはあやまちに陥ります。
第四、神様のお言葉を理解した後に信じようとしたらいつかはあやまちに陥ります。
イエス様に従った人々の中で多くの人がイエス様から離れました。彼らはイエス様のお言葉を自分の経験と知識水準で理解しようとしたので深奥である真理のお言葉を聞くとあやまちに陥りました。神様のお言葉は私達に理解の前に信仰を要求しています。聖書は創世記から私達に理解しなさいと言わずに信じなさいと求めます。神様の考えは人の考えより高いので私達が全て理解できないのが当たり前です。自分の理解の限界で留まる人はいつかはあやまちに陥ります。
第五、イエス様を信じるのを肉親の必要を充足させるための手段として扱うとあやまちに陥ります。イエス様の 12 人の弟子達はイエス様を自分達の野心を叶える手段として考えたので全てあやまちに陥りました。イスカリオテのユダはイエス様を売り渡し、他の弟子達はイエス様が逮捕されると逃げてしまいました。しかし、イエス様が十字架につけられて死なれた後に蘇ったら弟子達は変化されて生活の究極的な目的がイエス様を信じて福音を述べ伝えることになりました。その後、弟子達の中で一人もあやまちに陥りませんでした。信仰の結局が魂の救いにある人は何のことに直面してもあやまちに陥りません。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

神様を愛する者が言う言葉

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

世の中には数え切れなく多くの本があるがその中でとても特別な本があります。 その本は聖書です。 聖書が特別な本である理由を列挙すればこのようです。
第一、聖書の著者は神様です。 第二、天地創造から世の中の終末までを扱っています。 第三、神様がどんな方なのかを知らせてくれています。 第四、死が何で死んだ後にどうなるかを扱っています。 五番目、罪が何で罪人が救いを得る道が何やらか知らせてくれています。 六番目、人がどうして住みながらどうやって暮さなければならないはずなのかを教えています。 七番目、神様の約束がたくさん記録されています。以上に列挙したものなどは ただ聖書を通じてだけ分かります。

今日の本文は聖徒が期待感を持って待てる根拠になる神様の約束のお話です。
“神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。” この約束のお話は自分がする仕事がつぼにはまらない時や、苦難が持続する時にも気落ちしないように私たちの心に慰労と所望を持たせてくれる神様の口約束です。 聖書に出る人物の生涯をよく見ればこのお話の真実さに対する累積した証拠を読めます。 旧約聖書の創世記でその生涯の記録が一番多い分量を占める偉人はアブラハムです。 そしてここに比べるに値する分量を占める人物はヨセフです。 この 二人の族長の生涯は “神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。”というのを非常に劇的に証明しています。

これからアブラハムとヨセフ、この二人が経験したことをよく見ます。
アブラハムはメソポタミアで神様の召されるのを受けました。 彼は神様の命令に従順して神様が指示する所へ移住しました。 甥 ロトを連れて行きました。 彼が到着した所がガナアン地でした。 アブラハムはガナアン地に定着した後財産がますます増して家畜と銀金が豊かになりました。 アブラハムの甥ロトも家畜が多くなりました。 すると彼らの居住する地がアブラハムとロトがともに暮らすには窮屈になってお互いに離れて暮す事にしました。 ロトはソドム城があるヨダン江に移したしアブラハムはヘブロンに行きました。 ロトは信仰生活に有利な所より事業するのに有利な所を選択しました。 そうしてみると結局はソドム城に入って行って暮しました。こんな選択が遂にロトを危機に処させました。 グドルラオメル王が連合軍を編成してソドムを含めた南側の五つ国を侵攻しました。 彼らはソドムとゴモラのすべての財物を奪取してその所に住んでいる人々を虜に捕えて連れ行きました。 アブラハムの甥ロトと彼の家族たちもソドムに暮していたから同じ災いを被ってしまいました。 この消息をきいたアブラハムは甥ロトを救出するために追撃戦をすることに決断しました。

アブラハムは家で育てた 318 人の訓練された壮丁を導いて出発しました。 隣り人々の協力も得ました。 そして兵力を分けて夜間不意打ちを敢行してグドルラオメル王の連合軍を撃破しました。 アブラハムはすべての財物を取り戻したし虜になった人々を救出しました。もちろんロトと彼の家族たちも救出しました。 アブラハムは戦利品を自分が取らないで返しました。 この事によってアブラハムはその地域の社会で大きく尊敬と信頼を受けるようになりました。 この事件はすべての万事を益となるようになさる神様の摂理と恩寵に対してアブラハムが体験した多くの事例の中の一つです。
すべてのものが万事を益となるようになさる神様の摂理の手助けを劇的に経験した人の中にヨセフを漏らすことができないです。
ヨセフはヤゴブの十二息子の中の十一番目に生まれました。 彼は父の寵愛を独り占めしました。 それによって兄たちの憎しみを受けました。 ヨセフは自分が兄たちより高い地位にあるようになる夢を二回も見たがこれを口に出した理由に兄たちがヨセフをもっと憎みました。 ある日ヨセフは父のおつかいで兄たちが羊飼い所に訪ねました。 兄たちは彼らを尋ねて来たヨセフをエジプトに下がる大商に売ってしまいました。 ヨセフはエジプト王の警護大将ボディバルの家に売られました。 ヨセフは任せられたことをとてもまじめに行いました。 ボディバル長官はヨセフを信任して家のすべての事を管理する総責任者で立てました。 ところでボディバル長官の妻に謀陥を受けられて監獄に閉じこめられてしまいました。 ある日 王の食卓でお酒を注いだ大臣と王の食べ物を準備する大臣が監獄に閉じこめられるようになりました。 数日後二人の大臣が夢を見て心配するとヨセフが彼らに夢を解釈してくれました。 ヨセフの夢合せどおりお酒引き受けた大臣が三日後に復職されました。 その後二年が経ちました。 エジプト王が夢を見たがその夢があまりにもあざやかで心が煩悶してエジプトの魔術師と知恵者を皆を呼び入れてその夢を解釈するように言い付けました。 しかし彼らはとうていに解釈することができなかったです。 この時に王のお酒引き受けた大臣がヨセフを思い浮かびました。 彼は王にヨセフをすすめました。
エジプト王のところでは直ちにヨセフを連れて来させました。 ヨセフは王に “すぐ二回も重なって夢を見たことは神様がこの事を決めてこの事を急いで行おうとなさるからです。” と言いました。ヨセフは王の夢が 7 年の豊年後に 7 年の飢饉が近づくことを知らせてくれることであると解釈して災難に対する賢明な対処方法まで教えてあげました。 王が感嘆して歎服して直ちにヨセフをエジプトの総理席に座らしました。 ヨセフは神様がくださった夢の解釈どおり 7 年豊年の間に穀物を限りなく保存したし 7 年凶年が始まるとその穀物を放出しました。 凶年はエジプトだけではなく中近東地域を荒しました。穀物が足りなくなったヤゴブは彼の息子にエジプトに行って 穀物を買って来るように指示しました。 そして結局ヨセフの兄たちはエジプトの総理が彼らが売ってしまったヨセフであることが分かるようになりました。 歳月が経って父ヤゴブが死にました。 葬礼を終えて帰って来たヨセフの兄たちは自分たちが過去にヨセフにつけた罪によって仕返しにあわないか気づかって人をヨセフに送って彼らの意を伝達しました。 ヨセフは兄たちに答えるのを
“あなたがたはわたしに対して悪をたくらんだが、神はそれを良きに変らせて、今日のように多くの民の命を救おうと計らわれました。それゆえ恐れることはいりません。わたしはあなたがたとあなたがたの子供たちを養いましょう」。彼は彼らを慰めて、親切に語った。” (創世記 50:20,21) としました。 ヨセフがあらゆる難しいことに会っても平常心を持って乗り越えて行った理由を明らかにしたのです。

“あなたたちは私を害しようと思ったが神様はそれを良きに替える今日のように万民の命を救援するようになさろうと思ったのだ”という言葉は “ 神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。”と言うお話と一脈相通じます。
“神様を愛する者”は “神様の思った通りに召されるのを受けた者”と言えます。
神様の御旨によって召されることを受けなくては神様を愛する者がなれないです。 “神様を愛する者すなわちその御旨どおり召される者”と言いました。 私たちが神様を愛する前に先ずに神様が私たちを救援しようと決心したし私たちを愛してキリストイエスにあって呼んだという御旨です。 私たちが神様を愛するようになったことは先ずに神様を愛するという証拠があります。 第一、神様を愛する者はイエスキリストだけを救い主で信じます。 第二、神様を愛する人はイエスキリストの神様だけ仕えます。 第三、神様を愛する人はイエスキリスを伝えます。 第四、神様を愛する人は神様の助けを信じます。 五番目、神様を愛する人は神様の仕事に力をつくしながら生きて行きます。

結論を結びます。 “神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さること。” このことを確かに分かる聖徒はすべての事を感謝することで神様に申し上げて任せます。 いつも信仰で言います。待ちながらほめたたえます。 “私たちが分かるが” 神様を愛する者すなわちその御旨どおり召された者にはすべてのものが合力して良きに成すと言いました。 私たちのこれを分かる根拠は三種類です。 第一、神様が約束したからです。 第二、聖書に記録された人々の経験を通じたからです。 第三、自分の経験を通じたからです。 “私たちが推測するが”ではないです。 “私たちが分かるが”です。 “私たちが希望するが”ではないです。 “私たちが分かるが”です。 皆さんは皆が “神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。” と言う人になると願いします。